

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 輪島市

1 事業の趣旨・目的

外国人に基本的な読み書きなど日常生活に必要な日本語を教えることができる講師を養成し、当市での継続した日本語教室の開設・運営を目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月14日	輪島市役所 会議室	今井 武 伊藤三津子 木下伸一 七浦禎蓮 岡山貴幸	講師養成講座の重点事項の決定について	・曜日、時間、授業内容、回数、テキスト、講師候補者及び受講対象者の協議。 ・周知、募集方法の確認。 ※日本語教室運営委員会と併催
7月22日	輪島市ふれあい健康センター	今井武 伊藤三津子 木下伸一 七浦禎蓮 岡山貴幸	第2クールの内容、授業スタイル 日本語教室運営全般の協議	・第2クール(実技主体)の授業内容、テーマ及び外国人生徒の教材について協議。 ・生徒募集方法及びチラシの作成について。 ※日本語教室運営委員会と併催
12月22日	輪島市役所 会議室	今井武 伊藤三津子 木下伸一 七浦禎蓮 岡山貴幸	事業を終えて(反省・検討) 来年度の体制について	・反省等を踏まえ、自主運営を視野に入れた今後の教室運営について協議。 ・来年度の事業について

				て（市中心部以外での日本語教室、企業との連携等） ※日本語教室運営委員会と併催

【写真】



第1回運営委員会
（日本語教室運営委員会と併催）

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 日本語講師養成講座“外国人に日本語を教えたい人のための基礎講座 in 輪島”
- (2) 養成講座の目標
外国人に対する日本語教育に興味を持つ人に、日本語を教えるための基礎的な知識を提供し、基本的な読み書きなど日常生活に必要な日本語を教えることのできるスキルを身につけていただく。
- (3) 受講者の総数 22 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）
（出身・国籍別内訳 台湾1人、フィリピン1人、日本20人）
- (4) 開催時間数（回数）40時間30分 （16 回）
- (5) 参加対象者の要件
外国人に対する日本語教育に興味を持つ方（外国語能力・教授経験は問わない）
- (6) 受講者の募集方法
・「募集のチラシ」を作成し、公的機関窓口に設置。その他輪島市国際交流サロンや石川県多文化共生推進員を通して周知。

- ・「新聞折込広告」に募集記事を掲載。
- ・「市のホームページ」に受講生募集の案内を記載。

(7) 研修会場

輪島市ふれあい健康センター 3階研修室

(8) 使用した教材・リソース

- ・講師が事前にレジュメを作成、パワーポイントにて授業を進める。
- ・教科書「みんなの日本語」、「日本語宝船」、「おしゃべりのたね」、「にほんごこれだけ」ほか
- ・新聞の広告や写真等、普段目にする身近な物を教材として扱う。

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月24日	○オリエンテーション ○自己紹介 ○日本語を勉強している外国人とはどんなひとたちか/ ・教える際の心構え、気を付ける点、工夫すべき点や、国内・県内の外国人を取り巻く状況などの予備知識の学習。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	20人
6月28日	○やさしい日本語とは？ ○学習者を知る/ ・チラシ、通知分を使い外国人に分かりやすい文章を作る。 ・初めてくる外国人不安を抱えて来る。その対処法。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	16人
7月1日	○学習者について知っておくこと ○いろいろな日本語教室 ○外国語として学ぶ日本語 1/ ・様々な教室形態の確認と、受講者側の立場となって考えることを学ぶ。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	17人

7月5日	○外国語学習体験 ○自分を知る ○外国語としての日本語 2/ ・日本語を学ぶ外国人の気持ちを知る。 ・文法の教え方について。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	14人
7月8日	○外国人としての日本語 3 ○日本語の教材を見る 1/ ・品詞、動詞、助詞の復習。 ・日本語教室のスタイルと教科書について。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	15人
7月12日	○日本語教材を見る 2 ○教室活動のいろいろ ・教材の復習、掘り下げ。教科書の意図・目的を学ぶ。 ・3,4人ごとに1グループに分かれ、ミニ授業案を作成。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	17人
7月15日	○活動団体代表者の講演 ○ミニ教室体験/ ・教室活動・日本語を教える際の心構え、経験談及びアドバイス。 ・相互交流型の教室模擬体験。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武 七尾を世界へひらく市民の会 事務局長 大星 三千代	17人
7月22日	○フラッシュカード作り ○教室活動をしてみよう ○フォトランゲージ/ ・教室活動で使う教材の作成(カード) ・前回に引き続き教室活動の練習。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	15人

7月26日	○タスクシート作り ○教室活動をしてみよう・生教材を使った活動/ ・タスクシート、フラッシュカードや写真等の教材を使った模擬授業。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	14人
7月29日	○教室活動をしてみよう・文法に注目した教材を使用/ ・これまでは交流型の授業を中心に勉強していたが、文法に重点を置いた教科書を使った教室を勉強。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	15人
9月3日	○文法を教える ○血液型をテーマに交流授業/ ・第2クール開始。 日本語教室にて実際に外国人に日本語を教える。授業後に検討を行う。以下日本語教室でのテーマ。	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	12人
9月10日	○文法(形容詞) ○お月見をテーマに交流授業	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	13人
9月17日	○文法(形容詞の復習) ○漢字の勉強	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	12人
9月24日	○漢字の勉強(前回の復習) ○生徒に合わせた教材を使って授業	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	14人
10月1日	○漢字と反対語 ○生徒に合わせた教材を使って授業	(財)石川県国際交流協会 専任日本語講師 今井 武	17人

10月23日	○ワークショップ① 教材の紹介・比較 ○ワークショップ② 教材を使っておしゃべり …教科書の著者である先生をお呼びして、教科書の使い方の実践的な勉強。	金沢大学留学生センター 准教授 松田 真希子	18人
--------	---	------------------------------	-----

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

“外国の方にとって簡単・易しい日本語というのを、考えるのはとても参考になった”

“何気なく使う日本語が、外国の方にとってはとても難しいということが改めて分かった”

“講義と実技が続けて行われたことで対象が分かり、取り組みやすくなった”

・その他、授業回数が少なかった、短かったという意見が多く、レベルアップしたい意志が伺えた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

22名の受講申し込み中19名が講座を修了し、12～15名が現在も日本語講師として活躍されている。

講座を講義主体の第1クール、実技主体の第2クールと分け、専門の講師指導の下、積み上げ式にステップアップしていった結果、スムーズに講師へシフト出来た反面、第1クールと第2クールで曜日が変わり、日程の都合が合わない生徒が出てしまった。

養成講座修了後、講師として活躍いただいている人数やアンケートの結果からも成功ととらえている。しかしながら十分な知識・技術を習得したとは言えず、今後いかにスキルアップしていくか。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

養成講座受講生の要望が強いスキルアップ講座については、今後何らかの形で対応したい。

今後も日本語教室に対する支援も継続して行うほか、今年度講師が育たなかった地区でも講師を発掘、育成したい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

講座当初は受講生同士の繋がりは薄かったものの、講座修了後は互いに連絡を取り合い教科書の勉強をするなど、講師間で協力体制が見られる。また日本語講師と外国人生徒でクリスマスパーティを開催するなど、日本語教室の輪を越えた共生

活動にもつながった。

② 研修後の人材活用

日本語講師養成講座修了後に、市主催で日本語教室を開催したが、その後は受講生独自で日本語教室運営を目指し活動を始めた。

地元で講師の体制が整ったことにより、外部から講師を招かずとも日本語教室開催が可能となった。来年度は今年度対応できなかった地区への支援を予定している。

(12) 今後の課題

今年度の日本語講師養成講座にて19名の講師が誕生したが、専門的な知識を十分習得出来たとは言えず、ボランティアで日本語を教えるようになった生徒からは未だ不安の声が聞かれ、より高度な知識・技術が必要と希望がある。その他、講師のほとんどが市の中心部に住んでおり、他の地区まで手が届いていない。